

中長期目標 (学校ビジョン)	○社会の中で自立して生活ができる力の育成 ○職業生活に必要な意欲と能力の育成 ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体の育成	今年度の 重点目標	職業的自立と主体的な社会参加に向けた確かな力の育成
			琴の浦教育検証プロジェクトに基づいたカリキュラムマネジメント 地域との協働による魅力的な学校づくり

年 度 当 初					評 価 結 果 (10)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
社会人・職業人としての基礎的な力の育成	○基本的生活習慣の確立	○返事、言葉遣い等の基本的生活習慣が習慣化されていない生徒が少なくない。 ○「学習規律」や「生徒心得」の学校ルールが十分に徹底されていない。 ○自分の気持ちをコントロールする方法がわからず、正しい意思表示ができていない生徒がいる。	○自分の気持ちをコントロールしながら、学校や社会のルールを守って生活できる。 ○生徒自らが規律を守ろうという意識をもって、落ち着いて、意欲的に生活することができる。	○「生徒心得」「学習ルール」等のルールを守る重要性や意義を理解させるため、LHRや朝の会、帰りの会を活用して随時指導する。 ○自分の気持ちのコントロールの仕方、正しい意思表示の仕方を一人一人の実態に応じて指導し、教職員で共通理解を図る。 ○一人一人の意見を大切にし、様々な悩みや不安を互いに支える仲間づくり（学級づくり）に努める。	○生徒指導主事、学年主任を中心に、校内規則等について共通理解し、各学年、生徒へ徹底できるようにした。 ○学年を中心に、生徒一人一人の実態を把握し、指導方法、配慮すべきこと、支援すべきことを明確にし、共通理解を図りながら指導にあたっている。また、月に2回生徒情報を協議したり確認したりする会を設けている。しかし、生徒アンケートでは、気持ちの切り替え方がわからないと感じている生徒が約3割いる。	C	○挨拶、言葉遣い、当番活動、時間を守る等、当たり前のことを習慣化できるよう、日々担任を中心に、全職員が共通理解のもと指導していく。 ○将来を見据えた、生徒一人一人の実態に応じた指導・支援を行うために、担任（学年）を中心に、一人一人の「教育すること、配慮すること、支援すること」を明確にし、共通理解を図りながらきめ細かい指導をしていく。
		○新型コロナウイルス感染防止のため、全生徒がマスクを着用している。しかし、正しく着用できなかったり、手洗いが不十分だったりしている。	○正しく手洗いやマスク着用をしたりして、健康や衛生に留意しながら生活することができる。	○なぜ、マスクをつけなければならないのか、手洗いをしなければならないのかLHRや朝の会、帰りの会を活用して随時指導する。 ○新型コロナウイルスやインフルエンザ等、社会で起きているタイムリーな正しい情報や知識を具体的にわかりやすく説明する。	○日々変化していく新型コロナウイルスの正しい情報を生徒へ随時伝えた。また、今までは違う手洗いの仕方、用具の扱い方等の新しい生活様式を取り入れ、生徒が「なぜそうしなければならないのか」と意味づけをしながら指導し、習慣化を図った。正しい手洗い、人との距離の取り方等は、まだ不十分などところもある。	B	○引き続き、『なぜそうしなければならないのか。』の意味づけをしながら定着できるようにしていく。さらに、『いつ、どのようにすればよいのか』わかるよう、手順やイラスト等の掲示をする。
		○多くの生徒がSNSを利用しているが、長時間使用したり、トラブルの要因となったりすることがある。 ○使い方の習得が不十分な面がある。	○携帯電話等の使い方について個々のルールを守ることができる。	○「我が家のルール」や「決意表明」等、個々に設定したルールの確認や見直しを計画的に行う。 ○情報化推進担当と連携を図る。 ○個人懇談等を通して家庭と情報共有を行う。	○年度初めに「我が家のルール」や「決意表明」の作成を行い、本人・保護者と携帯電話等の使用について確認を行った。 ○情報モラル等の資料提供を受けながら個別の指導にあたった。しかし、汎化できずにトラブルが生じている。	C	○『我が家のルール』や『決意表明』の計画的な見直し時期等を検討していく。 ○より具体的な事例や資料等を活用しながら全体や個別の指導を行う。
		○専門共通目標を理解する生徒は増えたが、常に意識できている生徒は多くない。	○共通目標に挙げている社会人としての基本を、専門の授業の中では常に意識する姿が見える。	○常に意識できるよう、専門共通目標振り返りシートや実習日誌での自己評価・他者評価を繰り返す。 ○専門共通目標は、スローガンの短い言葉にまとめる。 ○「～月間」というように定期的に1つのことを意識する期間を設け、徹底する。	○専門共通目標振り返りシートや実習日誌での自己評価・他者評価は継続的に実施できている。 ○その他の2つについては実施できていない。	C	○引き続き、毎時間の振り返りやローテーションの変わるタイミングでの振り返りを利用しながら、共通目標を意識して活動できる環境づくりをしていく。
		○職員に対して自分から積極的に挨拶をする舎生は少なく、職員からの挨拶に「おはようございます」「帰りました」など、きちんと返答のできる舎生は5割程度である。	○自ら積極的に挨拶ができる舎生と職員からの挨拶にきちんと返すことができる舎生が8割程度いる。	○マイスター制度を活用して振り返りを行い、挨拶の習慣化を図る。 ○挨拶強化週間を設定し、能動的な挨拶の定着を図る。	○マイスター振り返りの面談をしていることで、挨拶の意識が高い舎生が多いが、他者評価低くても『できている』と自己評価が高い舎生がいる。 ○強化週間を設定し個々に目標を立てたことで、更に自発的に挨拶する舎生が増えている。	C	○個々に具体的に自己分析できるよう面談で評価する。 ○強化週間の振り返りをし、自分の達成度を確認する。また、実習へ向けても個々に目標を立て、実践できるよう意識付けをする。
	○学習における基礎・基本の徹底	○「学習のルール」の発表と姿勢の項目が中間評価以降、生徒の自己評価が下がった。授業に向かう気持ちを育成する必要がある。 ○本年度より道德の授業が始まった。	○学習のルール（授業準備、チャイム着席、挨拶、姿勢、発表）が継続的に守られている。 ○自ら学ぼうとする力やより良く生きていこうとする力が育っている。	○落ち着いた雰囲気作りをするために、余裕を持ったチャイム着席と朝読書を徹底する。 ○わかりやすい授業を展開し、学習に向かう態度を育成するために学習内容や支援を検討する。 ○道德科の授業を継続的に実施する。	○生徒アンケートより、どの学年も8割以上の生徒が「学習のルール」を守っていると回答、また、昨年末に比べ、朝読書の取組が良くなった。 ○授業が楽しい、勉強がわかると回答した生徒が学年により差がある。態度や意欲を育てるためにも、授業の見直しが必要である。	C	○「学習のルール」、後期に評価が下がる傾向にある。より意識し、指導を継続する。 ○研究研修、道德教育の各担当と連携し、授業改善の取組を継続する。 ○授業改善のための情報発信をする。
		○授業改善について教職員の関心は高いが、特に普通教科において、お互いの授業を参観し合ったり、指導・支援について学び合ったりする機会が十分でない。	○授業研究会や教科会等の中で研修したことを授業改善に活かしている。	○教職員にアンケートをとり、ニーズに合った授業研究会を実施する。 ○授業参観シートを活用し、改善案を共有する。	○ニーズアンケートの結果をもとにして、授業改善のための研修会を実施し、現在取り組んでいることと今後取り組みたいことを教科ごとに協議した。9割の職員が、研修したことが今後の授業改善に役立ちそうだと回答した。	C	○教科ごとに協議した授業改善のポイントをもとに、一人1授業研を進めていく。
	○ライフスキルの育成	○自己理解が難しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構えが不十分なままに就職してしまう生徒がいる。	（1年生）自分の課題を理解している。 （2年生）自分の適性を知り、進路を具体的に考えている。 （3年生）自分の適性を踏まえて進路を決定している。	○進路行事や、専門家派遣事業等を計画的に実施するとともに、振り返り等を工夫し生徒の意識を高める。 ○職員研修や通信等で卒業後の生活に関する情報を発信するとともに、必要な指導について意見交換する機会を設ける。	○1、2年生については、将来について考える機会として学年ごとに進路セミナーを実施した。3年生については、随時進路面談を設け、進路決定に向けて意識を高めた。 ○職員研修では情報提供や意見交換する場を設定した。	C	○進路指導室を効果的に活用する。 ○今後も研修や通信等で、必要な情報を提供したり、意見交換したりする機会を設けていく。
	○職業的スキルの伸長	○各コースで地域産業との連携を進めているが、社会人としてどう評価されているかを把握している生徒はまだ多くない。また、社会に出れば組織の一員となるがその自覚を持つ生徒は少ない。	○地域産業という他者からの評価を通して、組織の一員としての自覚を持ち、自分の今後の目標を立てることができる。	○専門共通目標についての評価シートを活用する。 ○地域産業と協働する際に、評価シートの記入をお願いし、その他者評価を専門実習に活かす。	○専門共通目標についての評価シートを学科会での協議の上、作成したが、活用にはいたっていない。	C	○今後、実施できそうな活動について活用する。

様式 2		○現場実習での生徒一人一人の課題について、コース担当者で共有できているコースとできていないコースがある。また、進路研修などで社会が求める力について研修しても個には反映されているが、コースへの反映は不足している。	○コース担当者が生徒一人一人の課題を把握し、コースの特性を活かしながら、生徒に必要な職業的スキルを伸ばす教育を行う。	○現場実習での生徒一人一人の課題について、コース担当者で共有する方策を考える。（コース会での議題にする） ○進路と連携して研修を行う（長期休業中に行っている進路の研修を合同で取り組む。	○現場実習を実施していない学年があるため、生徒の課題を共有することについてコース会の議題にはしていない。 ○夏季休業中に進路と合同で研修を行った。また、各コースで話し合った内容は掲示板に載せることで他コースとも共有できるようにした。	C	○実習後、生徒の課題の共有方法についてコース会で議題にする。
地域で生きる力の育成	○自治活動の推進	○学校行事や生徒会活動などで、運営や司会など生徒が主体的に活動する場面が増えている。	○生徒自らが学校をよくしようという意識をもって、意欲的に活動や企画運営に関わることができる。	○生徒会執行部会を定期的に開催し、生徒主体の自治活動となるよう活動の目的や課題を確認しながら計画的に話し合う機会を設ける。	○新型コロナウイルス感染対策のために行事開催方法の変更はあったが、生徒同士で意見を出し合いながら計画を進めていく場面が少しずつ増えてきている。	C	○引き続き、活動の目的や課題を確認しながら、生徒同士で意見を出し合えるよう、計画的に話し合う機会を設ける。 ○自治活動への関心を持ち意欲を高めることを目的として生徒総会を実施する。
		○琴海会3役は役割を自覚し活動できるようになってきたが、部屋長の中にはリーダー会にただ出席するだけで、リーダーとしての自覚が薄い舎生もいる。	○部屋長も自治活動リーダーであることを自覚し、リーダー全体で琴海会運営に関わることができる。	○部屋長が部屋の代表としてリーダー会で意見を出せるような体制を考え、構築していく。 ○部屋長が自治活動に主体的に参加できるよう役割を明確化する。	○感染対策のため全体会にリーダーが同室者の意見を聞き取り代表として集まる体制とした。 ○この体制で会を重ねることで役割を意識し、代表として意見をしっかりと出せるリーダーが増えつつある。	C	○後期はリーダーのメンバーが交代することもあり、現在の活動を定着できるように図っていく。
	○生涯体育、文化、芸術活動の推進	○障がい者スポーツ大会出場や部活動には意欲的であるが、休日に運動をしたり地域のスポーツクラブや文化活動をしている生徒は少ない。	○卒業後に生きる、地域でのスポーツ活動、文化芸術活動の情報を知る。 ○卒業後に生きる、自分の楽しみ（スポーツ、趣味等）を見つける。	○障がい者スポーツ担当者、部活動担当者が中心となって、各種イベント参加や出展参加を促す。 ○大会参加方法や活動状況を掲示したり発表したりし、生徒に情報発信していく。 ○外部団体等との連携を図り、体験活動やクラブ参加を推進する。	○新型コロナウイルス感染の拡大により、積極的に対外的な大会やイベントに参加することは難しかった。しかし、その中でも、ダンス部や卓球部が新しい生活様式で大会やイベントに参加することができた。	C	○現在の状況の中で、できる範囲で、イベントや大会への参加を促す。
教職員の専門性・授業力・組織力の向上	○コミュニティ・スクールの推進	○学校運営協議会により学校運営に関する助言を受けてきている。	○学校の教育目標達成に向けて、各関係機関・地域・学校がともに取り組む活動を増やす。	○地域に出かけていく活動の場を、継続・拡充する。 ○学校を会場に取り組むことができる活動を継続する。 ※新型コロナウイルス感染症の状況により変更する。	○新型コロナウイルス感染症拡大防止対応により、活動の幅が大きく狭まった。 ○カフェの再開等、県内の状況と感染予防の対応を十分にしながら地域とのつながりを取り戻すことができた。	C	○感染症対策を行いながら、可能な活動を広げている。 ○学校で行う行事に、学校運営協議会委員への参加を促し連携を継続する。
		○職業的・社会的自立を見据えた進路選択につなげていけるだけの情報が、地域の学校に対して十分に伝わっていない。	「琴の浦の教育」について、地域の学校の関心や疑問に応えるための工夫ができている。	・個別相談体制を整え、周知を図る。 ・地域の学校とつながりを作るため、積極的にアプローチする。	○説明会や体験入学等中止となった。 ○文書案内だけでは個別相談はなく、こちらからの声かけにより相談につながるケースがある。 ○相談会来校時をとらえ、学校説明や見学の抱き合わせで対応した。 ○体験授業動画の作成、配信を行った。	C	○地域のニーズを踏まえた情報提供の場作り。（11月説明会、オープンスクール） ○電話や来校時をとらえ、引き続き個別相談の声かけ。
	○組織的な指導・支援、対応力向上	○コンプライアンスの意識は高い状況にあるが、交通法規遵守等においてはうっかりが見られる。	○コンプライアンスの意識を常に持ち、職務の遂行にあたる。（M・Mラリー100日更新）	○職員会や終礼の時間を使ってミニ研修会を行う。	○連絡等で呼びかけは行ったが、ミニ研修会実施というところまでにはならなかった。 ○M・Mラリーは121日と100日を越えることができた。	B	○事例を取り上げながら、研修会を定期的を実施する。（職員会・終礼）
		○業務改善において時間外業務は大きな改善が見られた。	○1カ月の時間外業務45時間以上の職員が、いない。	○衛生委員会で時間外業務時間削減にあわせて業務内容の検討を行う。	○9月現在、月45時間を越える職員はいなかった。 ○個別に業務内容の検討を行うところまでにならなかった。	B	○月の目標は達成できているので、年間の上限を意識した声かけや業務の調整をしていく。

評価基準
 A：十分達成
 B：概ね達成
 C：変化の兆し
 D：まだ不十分
 E：目標・方策の見直し

[100%]

[80%程度]

[60%程度]

[40%程度]

[30%以下]